

業 務 連 絡
令和3年12月10日

会員 各位

(公社) 秋田県トラック協会

尿素水（アドブルー）不足について（情報提供）

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、昨今問題となっている尿素水不足について、当協会では把握している情報を提供致します。全日本トラック協会でも情報収集に努めているということで、最新の情報が入りましたら都度皆様にご連絡致しますので、よろしくお願い致します。

謹白

記

◆尿素水不足の背景◆

尿素水の主原料となるアンモニアは、石炭を精製してできている。中国は、この石炭をオーストラリアから輸入しアンモニアを製造・他国に輸出していたが、中国とオーストラリアの関係が悪化。中国はオーストラリアからの輸入を禁止した。

中国でも石炭は取られていたが、石炭の主要産地である内陸部で豪雨が発生したことにより、石炭の供給が急激に減少。中国は自国での需要を満たす為、アンモニアの輸出を10月に制限した。韓国では、アンモニアのほぼ全てを中国からの輸入に頼っていた為、尿素水不足が大きな問題となった。

日本においては、アンモニアを自国生産で80%近く賄っていたが、三井化学が所有する尿素水製造の工場が10月半ばから定期修理に入り、このタイミングが中国の輸出規制と重なった為、日本国内の尿素水が不足した。

また、韓国からの注文が日本に殺到した為、国内需要とは別の需要が発生し、これに対応した会社が出たことで、日本国内の尿素水不足が加速した。

11月以降、これらの要因により国内の尿素水の供給が激減した為、品薄感から尿素水販売業者に需要家からの注文が殺到し、供給能力を上回る事態に発展した。

◆三井化学の工場はフル稼働へ◆

三井化学は11月29日に定期修理を終えた大阪工場の稼働を再開した。これと同時に、今まで85%程度に抑えてきた尿素製造設備の稼働率を100%まで引き上げることとしており、これにより月量5,000トンほど生産量が拡大する見込みである。

◆経産省の見解◆

こうした事態に対し、経済産業省素材産業課は「国交省と連携して需給状況を注視しながら調整していく」とコメント。

中国における火力発電停止に伴う尿素生産減少が緩和されつつあることや、韓国における尿素水不足騒動がひと段落していること、三井化学が尿素を増産することなどを念頭に「12月は持つ」との認識を示した。

一方、中国の輸出規制が長期化した場合、供給を賄い切れない可能性が出てくることを視野に、「自由経済の条件の下で、悲観的なシナリオに立って輸入の多角化を需要家と手を携えてやっていく」と付け加えた。

政府が直接尿素的の調達に乗り出す考えについては否定的で、政府が全面に出ていくことで、高値での転売を目的としたバイヤーが出てくる可能性が高まるとの見解から「それを加速させてはならない」と警戒感をあらわにしている。

◆全ト協のコメント◆

最近では、トラック協会や会員さんからの直接の電話での問い合わせが増えてきた。当協会としては、単に「尿素水が手に入らない」ということでなく、「どのようなルールの中の箇所がボトルネックとなっているのか、分かる範囲内で情報提供して欲しい」として、情報収集に努めている状況である。現時点では、困っているところもあれば、さほど困っていないところと混在しているとのことである。

以上